

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名 スクールバス運行委託費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 特別支援教育課 教育企画係

電話番号：058-272-1111(内8687)

E-mail：c17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 451,466 千円 (前年度予算額： 396,938 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	396,938	0	0	0	0	0	0	0	396,938
要求額	451,466	0	0	0	0	0	0	0	451,466
決定額	451,466	68,696	0	0	0	0	0	0	382,770

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全な通学手段の確保と適正な就学を推進するため、業務委託によりスクールバスの運行を実施

(2) 事業内容

県立特別支援学校17校で78台のスクールバスの運行業務を委託

(3) 県負担・補助率の考え方

県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全な通学手段の確保及び適正就学を目的とした整備のため、県負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	450,716	スクールバスの運行委託費
使用料	750	県による代車借上料
合計	451,466	

決定額の考え方

財源については、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次教育振興基本計画（2024.3）

（8 各政策の取組内容 政策I 多様なニーズに応じた学びを支える学習環境の整備）

③特別支援学校児童生徒の通学支援

県立特別支援学校の児童生徒の通学に係る負担を軽減するため、乗車を希望する児童生徒の推移に合わせて、スクールバスを増配備

・子どもかがやきプラン（平成21年3月改訂）

（スクールバス整備 基本方針）

スクールバスの乗車を希望する児童生徒数の推移に合わせて、希望者が乗車できるよう整備する。全路線でバスの乗車時間を片道概ね60分以内にする。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第4次教育振興基本計画」の基本方針に基づき、スクールバス乗車を希望する児童生徒数の推移に合わせて、希望者が乗車でき、全路線でバスの乗車時間を片道概ね60分以内に行えるようスクールバスを運行する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①乗車時間（片道）概ね60分以内の児童生徒数の割合		1341	1365	1,488		
		1341	1365	1,488		
		100%	100%	100%	100%	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	乗車を希望する児童生徒の推移に合わせて、スクールバスを60台運行した。
	指標① 目標：1,253 実績：1,253 達成率：100%
令和5年度	乗車を希望する児童生徒の推移に合わせて、スクールバスを63台運行した。
	指標① 目標：1,260 実績：1,260 達成率：100%
令和6年度	乗車を希望する児童生徒の推移に合わせて、スクールバスを70台運行した。
	指標① 目標：1,341 実績：1,341 達成率： <u>100</u> %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 1	<p>県立特別支援学校に通学する児童生徒数の増加に伴い、スクールバス乗車希望者数が増加しており、今後も安全な通学と適正な就学を推進するためにも、事業の必要性は高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	<p>スクールバスを運行し、県立特別支援学校の児童生徒の安全な通学手段を確保することができた。 スクールバス通学の児童生徒数に占める乗車時間片道概ね60分以内の児童生徒数の割合が100%となった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	<p>「第4次教育振興基本計画」の基本方針に基づき、片道概ね60分以内の乗車時間の達成を目指し、スクールバスの運行を実施した。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>県立特別支援学校に通学する児童生徒数は増加傾向にあり、それに伴いスクールバス乗車希望者も増加している。今後も児童生徒数の推移に対応しながら業務委託によるスクールバスの運行を実施する。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>今後も県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全な通学手段の確保と適正な就学を推進するために、業務委託によるスクールバスの運行を実施する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	